

昭和三十四年九月二十七日（日） 天候晴

一昨夜、台風は岐阜を中心に吹き来るので、朝起き出で、見るに、大荒れて居て東の小屋は正にかやる寸前となり居て、誠にあふなき事であるのと、西南にありし杉の大木か西にたをれて居りしに依り、全くをとろき早朝より□くれを切りて片付けに大多忙をきわめて困りたり、大屋根の瓦か吹き

飛び散りて、何とも手の付け様かない程である、

一午前九時より村内を巡り、被害の様子を見廻りを行ふてより、組合へ行き宮地・本郷・舟子・願成寺・草深

山洞・藤代・萩原・杉原等を巡りて被害の様

子を調査を行い、午後五時頃に帰り来る、

一願成寺の□□か屋根瓦を直してくれるのと、小

屋の起しにかゝるに、とても起きぬので中止したり、

夜は電燈もつかぬので早く寝に付く、

各所に被害の続出して居るので困る、

（特別記事欄）

一誠に昨夜の台風は

意外に大したるもので、

生きた心地もなく家

にもよう居らず外に出で

居たり、電気が来ぬの

で他の被害の知れず

に居たが、定めし大被害

がありし事と思ふ、

昭和三十四年九月二十八日（月） 天候晴

一今日は組合を休みて小屋を起すのに、仲々一寸で起き

ぬで大困難をしたが、それでも午前中にようやく

起し得て喜びの事である、それから樋を手直しを行ひ、

夕方までようやく片付け得たり、名古屋の朴方の勝

彦か来りての話しでは、朴方床一尺五寸位の水付き

でありしとの事、今ても床下五寸位あるとの事であると

の事である、

一市場より健一來り、岐阜へ見に行くとの事で、宅の車にて行く、

一 電燈料参百六拾円を支払ふ、
一 昨日初七日をつとめるとの事で和子は正二屋へまんじ
を注文に行き、十五円のまんじ四拾個注文して
来たとの事である、

(特別記事欄)

東濃と名古屋方

面の被害はとても大
被害があつた様子で
ある、

今夕に至りてようやく

電気が来りてよう

やく生きた様である、